

宿題と秋々の夏の人

中野 卓

調査計画について

・この頁の私の調査計画——二心を形
 成、この紙上で語り合おう、と提案した
 い。まず去い出した者から始めよう、とい
 う意味で口火を切ることをお許し下さい。
 (一)九学全組合による二年長能養看護
 に参加して、埼玉武田養正先生のものと
 能登郡町の共同調査に参加。外木英夫氏
 が高田根村旭野、北江哲男氏がそのレン
 ターたる郡部、小生は阿町の味噌工業(一
 東養家水不請)を、夫々社会学的に新
 究。

(二)ついで、又一年度に小生の担当し
 た能登養正村の調査(鎌大政綱の村々
 とその組合を、能登前線から東部及南東
 政界調査を中心に取上げ)を準備。二
 回は小生のみ、特に「村部」の宿題を延
 意しつつ調査。

三教育大の社会学研究所(有賀・森田
 小生等)の福州本市北津原村、廣科町
 の調査に参加。兵庫テーマは、行政町の
 成りとその発展発展の過程。高田養村旭
 野の町部との相互依存関係とその発展(

森田氏担当)、それにもなる町部全体
 の発展発展(奥有工場誘致に伴う変化
 を念じ)(小生担当)。勿論、両者共度
 町政界の発展は調査テーマと異なる
 二の調査については何様でしょうか。

・二心を宿題のテーマと方法について
 「第一期」に比較可能なものが多い町部
 の調査方法による調査を行うべきだとい
 う柳田、山本、大森三氏の主張に甘んじ
 として賛成。しかし、村によりかすつ
 異なる形をもつた改革前の社会構造を前
 提条件として改革の動きを捉えること
 難在を捉えるためと根本的変革を捉え
 突いつき松原氏と同意見。大森先生の言
 われるような *symptoms* を構造の断片
 は現在だけなく、改革前後についても
 位置であり、勿論現在に對するような測
 定の方法では不可能であるが、他の方法
 であり全く不可能なわけではなく、また
 可能な水引きの方法を工夫してこれを
 進行しなければならぬ。そして、この
 ような、現在の前提となつていふ調査、
 及び現在に對しての構造技術的分解を
 行なうことは、測定的方法を適用するに
 際しても、一層深く手紙の中核に据えるよ
 うな着目、その要因の調査、尺度などの

発想を明確にし、一層適切に構造を分
 析し、何を測るものかとをまず、日本
 の社会は、その社会心理的な人間関係を
 も、とりわけ大失所につくられた四凸の
 上に築き上げられていると思っています。

二心を理由で調査計画のせまった今年
 の宿題としては、前野の調査発表に賛成す
 る次第です。
 それは、別には去年のSSM調査のよ
 うに全国調査一内方法を打つたものに
 し、私もそれを皆が本誌に共同してやるに
 は、ことに調査、調査指針の題目に
 打つてきけるわけですから、先ずそのた
 めに、みんなでお金に討論をつくす時間
 と費用が保障であり、一掃案計にも、兼
 断分折をみんながたんに討論しつつ行
 うために、それが大前提です。もしその
 ような前提条件がなければ、進行すれば、
 けっさよくお救済の案を打つけること
 なるがそれもあります。現在の条件の上
 に、あせらぶかもしつ論を聞いてゆく
 がよいと思えます。
 今は、時も迫つており、後々個々の調
 査計画もそれぞれに手紙を打つたこととして
 前野に打たぐらいの原案を打た中心テ
 マを盛り二心で、二心にその目的の中心によ

る歴史を細か合せてゆくのがよいと
思います。比較的可能性を呈する
より客観的な分析の枠を以てする
との共同化に導く東洋の條件への
おし公座に首かたにすぎぬかの
とれるまうなことに存つては、
とりかえしなつかぬ残念事と
思ひます。

（東京教育大学）